

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
86	川崎市立長尾小学校	松浦 徹

学校教育目標	今年度の重点目標
<ul style="list-style-type: none"> ○自ら考え判断し実行する子 ○進んでかかわり思いやりがある心豊かな子 ○夢を育む 心身ともに健やかな子 	<ul style="list-style-type: none"> ○確かな学力を育成する教育活動の推進 ○自ら考え、判断する力を育成する教育活動の推進 ○豊かな心と健やかな体を育成する教育活動の推進 ○地域・保護者に開かれた学校づくりの推進

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策	
1	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的な知識技能の確実な習得 ○学習規律・学習習慣の定着 ○指導計画、評価計画に基づいた適正な教育課程の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元や本時の学習のめあてを意識した「分かる・楽しい」授業を実践する。 ・個別の学習状況に合わせた指導方法を工夫する。 ・聞く、話すなどの学習ルールを徹底する。 ・家庭学習等の学習習慣の定着を図る。 ・教科等の年間指導計画に基づいた計画的な授業実践を行う。 ・児童一人一人の学習状況の分析と指導方法の工夫改善を行う。 ・学習指導要領の理解を深め、研修等を通して指導力・授業力の向上を図る。 ・GIGAスクール構想の実践とGIGA端末の一層の効果的な活用を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が単元を通しての学習のねらいや今日の授業のめあてを明確にした授業に取り組むことができた。 ・専科的な授業形態やTT、支援教育コーディネーター等による取り出しや入り込みを行い、個別対応が必要な児童の学習支援を行った。 ・「自ら考え学び合う子の育成をめざして」を校内研究のテーマに掲げ、日々の授業において意識しながら実践した。どの教科でも聞く話すの指導を行い、発言の仕方や聞き方など学習ルールの定着に努めた。 ・今年度、児童は家庭学習に取り組むことができたという意識が保護者ともに高い成果となった。 ・カリキュラム部会からの年間指導計画の提案を受け、学年で計画的に授業を推進した。 ・授業において児童がグループで互いに学び合う学習形態のツールとして、GIGA端末の活用の推進を図った。一方GIGA端末の学年ごとの指導内容の系統や、個々の技能習得に学年間による幅があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態を把握し、個に合った基礎基本の定着や知識・技能を習得させるために、常に授業改善、指導計画や評価計画を見直し、教員間で共有を図る。 ・個別最適な学びとなるよう、専科的教員の有効活用、保護者や児童のニーズに応える授業形態を今後とも構築していく。 ・教材研究を推進し理解に不安が残る児童を一人でも減らしていく支援を行い、「わかる授業・できた時の喜び・楽しい授業」を展開する。 ・復習や児童が興味関心をもった学習や読書なども含め、宿題以外の家庭学習にも取り組めるように保護者とも連携しながら学習習慣の一層の定着を図る。 ・他校の実践事例や研修等で学んだ成果を共有し、教師の技量を高め、年間指導計画等にも位置づけていく。個別対応が必要な児童の学習支援に対してのGIGA端末の効果的な活用を推進する。日常の家庭学習や長期休業の学習ツールとしても一層活用を図る。
2	<ul style="list-style-type: none"> ○自ら進んで学習に取り組む態度の育成 ○体験学習や問題解決学習等の充実 ○児童が主体的に活躍できる活動の推進 ○学習状況の把握と指導改善の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたち一人一人の好奇心や意欲をかき立て、学ぶ楽しさを感じさせられる授業づくりを行う。 ・体験学習や問題解決学習等を積極的に取り入れ、論理的な思考力、主体的な判断力、豊かな表現力を育成する。 ・情報活用等を通して、物事を多面的、多角的に捉える力を育成する。 ・特別活動や学校行事等において、児童の意見を大切にしながら、子どもたちが主体となって生き生きと活躍できる場面を設定する。 ・児童一人一人の学習状況の分析と指導の工夫改善を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習時に心を揺さぶるような資料の提示や発問を工夫して、誰もが楽しく進んで学習に取り組めるよう工夫に努めた。理解に不安を感じている児童への積極的な支援の必要性を強く感じる。 ・生活科や社会科では長尾の地域を生かした活動や施設との交流が増え、児童の意欲や関心を高める学習となった。 ・長尾小の特徴である少人数校の利点を生かし、一人一人が役割をもって取り組む活動ができる機会を創出した。異学年交流の縦割り活動では、高学年がリーダーとなりみんなを楽しませる企画や運営を生き生きと行い、楽しい活動ができた。 ・新川崎学習状況調査、全国学力学習状況調査の結果の分析を行い、課題等を職員間で情報の共有を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究や外部講師による教科研修や教材研究を通して、教員一人一人の授業力を常に高めていくことが必要である。さらに楽しく、分かりやすい授業を目指し、児童自ら進んで学習に取り組む態度の育成も図りたい。 ・問題解決学習では、発達段階に応じた課題提示の方法を工夫し、思考力や判断力の育成を図っていく。 ・GIGA端末のより効果的な活用方法を工夫し、学習の基礎基本の定着を図り、情報処理力も培いたい。 ・小規模校の利点を生かした取組や、児童主体の生き生きとした活動を推進し、クラス内の実行委員の活用、委員会活動や異学年交流の活性化など、今後も新しい主体的な活動を生み出したい。 ・各種学習状況調査の分析した内容を、日々の授業実践に生かしていきたいと考える。

3	<p>○命、心の教育の充実 ○人権尊重教育の推進 ○キャリア在り方生き方教育の推進 ○いじめや暴力を許さない学校環境の構築 ○共生*共育プログラムの計画的な実施 ○健康・安全教育の推進</p>	<p>・道徳教育や人権尊重教育を通して、豊かな心、命を大切にすることを育てる。 ・SOSの出し方受け止め方等を大切に児童の思いに寄り添い、いじめや暴力を許さない学校体制作りに努める。 ・児童の自己肯定感や未来への希望を高めるキャリア在り方生き方教育を意図的・計画的に実施する。 ・共生*共育プログラム・効果測定等を通して、児童の変容を的確につかみ指導につなげる。 ・体育等を通して、運動に親しむ機会の充実を図る。 ・安全教育、防災教育等の計画的な実施を図る。 ・給食活動を通じた食育教育の推進を図る</p>	<p>・年間指導計画や各部会からの提案を基に、全職員で児童の心を育てる教育の実践に取り組んだ。さらに命の大切さをテーマにした授業を実践し、自分の身体も大切にすることを育むことができた。 ・定期的に児童指導部会を行い、全職員で児童理解を図った。年3回実施する学校生活アンケートを基に、いじめを未然にキャッチしたり小さなトラブルに対しても迅速、丁寧に対応したりして、いじめを許さない見逃さないという意識を高めることに努めた。また、学年に応じたいじめにつながる言動を理解するために劇化や動画を取り入れた授業実践も行った。さらに代表委員会からのいじめ防止についての提案を受け、全学級で話し合う時間を設定した。全児童がいじめ防止に向けたキャッチフレーズづくりなど、児童主体の活動を行った。 ・キャリア在り方生き方教育では、成長していく変容を児童自ら感じ取り、それを個人資料ファイルに保存し、未来への希望を高めていく取組を行った。 ・体育の授業では、運動に親しむような指導や安全な練習方法などを実践した。 ・「自分の身は自分で守る」という意識を育てることに取り組んでいる。高学年では総合的な学習の時間で、防災教育について学び、避難所開設体験などの活動を行った。 ・栄養教諭による食育に関する学習を計画的に行い、食育教育の推進を図った。また、ボランティアの協力のもと野菜の栽培活動にも取り組み食育教育との関連を図った。</p>	<p>・きめ細やかな児童支援を進められるように、支援教育コーディネーターを中心とした会議を月間予定に組み込み、全職員で児童理解に努めていく。単級学年が多いので、専科教科等を活用し複数の職員の視点で見ることを今後も継続する。 ・いじめや暴力を許さない指導の徹底や、心の教育の充実に向けた取組を引き続き行う。SOSの出し方、受け止め方教育を継続し、児童の些細な変容に敏感に反応できるように職員の意識を高める。 ・栽培活動や生活科、家庭科や総合的な学習の時間などの教科ゲストティーチャーやボランティアの方に接する機会を今後も設定し、様々な方との出会いを通して児童が未来への希望や生き方を考えていくことができるキャリア在り方教育を進めていく。 ・体育の授業だけではなく、異学年交流やkawasakiキラキラチャレンジなど、児童主体で遊ぶ企画への支援や時間の設定を行い、運動に親しむ機会の充実を図っていく。 ・地域の避難所運営会議とも連携し、安全教育、防災教育を計画的に今後も実践していく。 ・栄養教諭を中心に食育教育との関連を考え、栽培活動など、課題やねらいを明確にし教科指導計画に組み込みながら、長尾小の特徴を生かし取り組んでいく。</p>
---	--	---	--	---

4	<p>○家庭、地域への積極的な学校運営の情報発信</p> <p>○学校・保護者・地域との連携による児童の安全・安心な環境の整備</p> <p>○地域との関わりを大切にした教育活動の推進</p> <p>○長尾小コミュニティースクール(学校運営協議会)の新設と推進</p>	<p>・様々な機会を捉えて、家庭や地域に学校運営の現状について発信するとともに、家庭、地域の方々の学校に対する思いや願いを的確に把握する。</p> <p>・保護者、地域と情報を共有しながら、児童の安全・安心に向けた取組を推進する。</p> <p>・地域の人材や素材を活用しながら、児童が地域に愛着をもてるような活動を実践する。</p> <p>・ホームページ、学校・学年だより等で、効果的・積極的な情報発信を行う。</p> <p>・行事や授業参観等で小中幼保小等の積極的な連携を図る。</p> <p>・長尾小コミュニティースクール(学校運営協議会)構想の推進を図る。</p>	<p>・学校説明会を実施し、また月毎にホームページや学校だより等で学校の取組の情報発信に心がけた。学校報告会は運営方法を見直し、動画による報告とし教育活動アンケートを中心に学校運営を振り返った。また、長尾小コミュニティースクール(学校運営協議会)を2回開催し、学校の様子を伝えるとともに地域の方からの意見を学校運営に生かした。</p> <p>・子どもの安心・安全委員会議を開催し特に登下校時の児童の安全・安心に向けて情報交換できた。</p> <p>・5月以降、公園探検やスーパー見学などの施設を活用した活動に取り組むことができたが、人材の活用はさらに充実させていきたい。</p> <p>・昨年度の教育活動アンケートの声を生かして、今年度はより身近なホームページとなるよう定期的に学校の児童の様子を写真で取り上げ、学校・学年だより等で情報発信を行った結果、教育活動への理解を深めていただけた。</p> <p>・幼保小連携では、授業参観及びその後の情報交換を行うことができた。また、多摩区内全体で幼保小の連携を図り、オンライン会議も活用し情報交換を推進した。</p>	<p>・学校運営をより理解していただけるよう児童が学校生活を楽しんでいる様子を今後も発信する。学年だよりなどはより学年に特化し内容の充実を図りたい。</p> <p>・長尾小コミュニティースクール(学校運営協議会)2年目となり、より地域との一体化を図り、趣旨を生かし連携を深めていく。</p> <p>・児童の安全・安心に向けて、町内会、スクールガードリーダー、交通安全指導員、PTAとともに連携して活動していく。</p> <p>・地域素材や地域の方を活用して、より効果的な教育活動を目指し、さらにキャリア在り方教育や長尾小地域を愛する心を育む教育を推進していく。</p> <p>・今後も「保護者・地域に開かれた学校づくりの推進」を図り、学校・学年だよりや学校の様子をホームページを定期的に更新する等、情報発信に取り組んでいく。</p> <p>・多摩区内の小中幼保連携のより充実を図り、授業参観等の交流の継続、連携を強化していく。</p>
---	--	--	---	---

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<p>※長尾小コミュニティースクール(学校運営協議会)での各委員さんの感想やご意見をまとめました。</p> <p>・長尾小コミュニティースクールとして、昔遊びや民話の授業で協力できればと考えています。</p> <p>・多様な人々が働く職場ですから、多様性を学ぶ授業で協力したいです。</p> <p>・各教室、トイレ、フロアが整えられていて衛生的で、良い環境で学んでいると感じました。</p> <p>・計画委員会の児童の積極的な活動、自主的で素直で素晴らしいと感じました。発表する姿も前向きでよかったです。地域の方への呼びかけはよい試みだと思います。</p> <p>・栄養教諭の配置などありがたいと思いました。</p> <p>・通学路で危険な所を町内会に知らせてほしいです。また、地域の公園の美化活動、落ち葉拾いなど高学年の児童と一緒に実施できればありがたいです。</p> <p>・中学校の職業体験で、卒業生が「町探検で来たことがある」と親しみを込めて話をしてくれた時、私たちむかひいれる側もうれしい気持ちになりました。地域の一人として暮らしているんだと実感しました。</p> <p>・能登半島地震など、児童の避難には地域の協力が必要です。避難所開設ではお世話になっていますが、学校の防災対応の情報もいただけるとありがたいです。</p> <p>・少数精鋭で学校生活において全学年が交流できることは、素晴らしいことです。毎回、子ども達の進歩も素晴らしいことです。</p>	<p>・各教科共グランドデザインをカリキュラムや年間指導計画に反映して学習活動を行った。教員が学習の見通しをもち授業を展開し、個に応じた基礎学力の定着に努めた。教育活動アンケートによる成果や課題を分析し情報共有し、授業内容の理解に不安があるという児童への授業改善や、より楽しい校生活に向けて、重点的に取り組む必要がある。</p> <p>・GIGA端末の活用を推進するための研修を行い、学年間の指導の系統や授業内でのより効果的な活用に向けて計画的に推進していく。</p> <p>・児童の心の成長を大切にされた道徳教育や人権尊重教育に取り組んだ。いじめや暴力への対応では、職員が一丸となりソナー探知により未然防止に努め、児童支援について共通理解を図った。いじめ防止に関しては、教職員だけでなく児童主体の取組についても継続していく。</p> <p>・SOS出し方、受け止め方教育の取組については、学校生活全体で重点として位置付け、児童の気持ちに寄り添い保護者とも連携しながら積極的に推進していきたい。</p> <p>・保護者や地域に、学校の取組を発信し理解を得ることができるよう、「より開かれた学校」を目指しホームページ等を活用して、積極的に情報を発信していくことを継続したい。</p> <p>・教育活動の目標やねらいを明確にして、保護者や地域と連携し「長尾小らしさ」を生かし、教育活動を地域、保護者、PTAと連携しより強く推進していきたいと考える。</p>